令和３年度　小林市立小林小学校　関係者評価書

４段階評価　　４　期待以上　３　ほぼ期待どおり　２　やや期待を下回る　１　改善を要する

学校経営ビジョン	学校・家庭（保護者）・地域との協働により、一人一人の子供の実態を把握・共有し、個に応じた支援を行いながら知恵・声・汗を出す姿を「称賛・承認」することを通して、 自ら行動できる（学び、思いやり、きたえる）子供の育成、及び家庭（保護者）・地域に信頼される学校をめざす。 －みんなで一緒に成長しよう：学びいっぱい　思いやりいっぱい　元気いっぱい　Ⅱ－

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	■目標　自ら学ぶ子供の育成 －学びいっぱい－ **主体的に思考、判断、表現することができる子供（①一人一人が地域や社会に関心をもつ　②課題について他と協力する）** ■手段･ゴールイメージ １　学びたい度 ２　「思考力。判断力・表現力」が高まる子供の育成 ３　「主体的・対話的で深い学び」の場の確保 ４　作品等発表の場の拡充 （宮日新聞作品掲載：昨年度17→24作品以上） ５　ICT活用の一層の推進 （タブレット利用率100%・デジタル教科書・実物投影機等ICT機器の常時活用）	○　昨年比で「学びたい度」は向上しているが、まだ、市目標の７４％には届いていない。児童が主体的に学ぼうとする態度の育成をするために、教材や活動内容の工夫が必要だと感じた。 ○　地域のことや自分の夢に目を向けるような取組の結果、昨年度よりも「学びたい度」が伸びた。 ○　一人１公開授業を通して、互いの授業から学ぶことができた。実施時期が１０月～１２月に集中したので、授業を見る機会が少なくなる職員もいた。来年度は、１１月に研究公開を控えているので、５月から一人１公開授業を計画し、より多くの授業を参観できるようにし、「わかる・できる」児童の育成を目指したい。 ○　読書は、感染症のため制限された中でも充実させることができた。「ブックビンゴ」の取組で、児童は様々なジャンルの本に触れることができた。ただ、「読書が進まない子」への働きかけを今後も工夫して継続する必要がある。 ○　昨年度を大きく上回る宮崎日日新聞掲載数を残すことができた。さらに、学級で取り組んでいきたい。 ○　どの学級でもタブレットを活用して学べる子供を育てるために、研修を充実させる。キーボード入力検定に取り組み始めた。タブレットの家庭への持ち帰りの検討を始めた。効果的な活用方法を保護者に啓発していきたい。	3.1	3.2	○　児童が「学びたい」と思う気持ちを考えてみると、まずは学校に行くこと自体が楽しいと感じることができているかが大切だと感じます。友達がいる学校、好きな先生がいる学校、給食が楽しみな学校など楽しいと感じる要素が増えれば増えるほど、子どもたちは主体的に学ぼうとする気持ちも増えていくと思います。 ○　学力の向上・定着に向けた指導方法の一層の工夫とともに児童にも自学に対する意欲を喚起させる手立てをお願いします。 ○　子どもたちが生まれ育った小林をより理解し、小林を愛し、小林に自信と誇りを持つことができる教育”ふるさと教育”をお願いします。 ○　学力以外の分野でも児童達の特性を発揮させ、活動意欲、自信を持たせるための創意工夫がなされていることは全校児童の励みになります。（宮崎日日新聞掲載作品の紹介等） ○　キーボード入力検定は、大人になってからも活用でき、役立つので、今後も継続が必要です。 ○　コロナ禍で子どもたちの学習している様子をなかなか見ることができなかったのが残念です。ICT活用の授業風景などをじっくり見たいです。（実際にどのように使っているのか。先生とのコミュニケーションや子どもたちが発言する機会など）
徳育	■目標　自ら思いやる子供の育成 －思いやりいっぱい－ **よりよい人間関係を築くことができる子供（①一人一人が相手意識をもつ　②主体的に思いやりのある適切な言動をする）** ■手段･ゴールイメージ １　基本的生活習慣の定着 **（年間重点指導項目：相手を意識した行動ができる：地域・学校内での朝の挨拶／安全な廊下歩行）** ２　自他の人権意識の向上 （「さん」付け呼称／人権週間の活用） ３　問題行動（いじめ、不登校、非行等）の未然防止と早期発見［見逃さない対応］ ４　特別支援教育の理念に基づく対応	○　１０月から「スクールワイドPBS」の取組として、挨拶について全職員で児童の行動を褒めたり、認めたりして目標の行動に近づけることができた。 ※「スクールワイドPBS」とは、職員の目線をそろえ、ポジティブに児童を育てる取組 ○　挨拶に関しては、引き続き家庭・地域とも連携していく必要がある。 ○　廊下歩行については、お手本となるものを用意したり、委員会を中心としてよい姿を見せていくなど、児童が主体的に動ける機会をつくりたい。 ○　言葉づかいについては、今後も継続してあたたかい言葉かけができるようにする。 ○　児童に登校しぶりの前兆が見えた時、早期の対応を組織的に進める必要がある。また、家庭だけでなく各関係機関やスクールカウンセラー（SC）やソーシャルワーカー（SSW）とも連携しながら不登校が減るようにしたい。 ○　些細な事案であっても、被害児童が苦痛を受けたと感じる場合は「いじめ」と認知し、複数の職員で対応し、指導するようにしている。いじめとして認知することで、指導の場が増え、心に訴える指導ができている。	2.4	2.6	○　コロナ禍でマスクの着用の生活、表情が見えない今だからこそ人権意識の向上が必要だと思います。 ○　コロナ禍のなかでの学校生活は、想像以上に大変だと思います。子どもたちの様々な兆しやサインを早期に察知することが重要にもかかわらず、マスクの着用、ソーシャルディスタンス等により，早期の察知が容易ではないのではと心配しています。より注意深く子どもたちに接して欲しいと思います。 ○　あたたかい言葉をかけるとやさしい気持ちになり、学校が大好きになるきっかけになると思います。 ○　児童の地域・学校内での朝の挨拶が残念であり、こちらから大声で挨拶をすると応えてくれるという印象です。PTAの生活育成委員会としても力を入れていく必要があると感じます。家庭・地域・学校と連携していく必要があります。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
体育	■目標　**自らきたえる子供の育成** **－元気いっぱい　Ⅰ－** **心と体をたくましく成長させることができる子供（①一人一人が健康な生活習慣を身に付ける　②物事に主体的に取り組み、最後までやり遂げる）** ■手段･ゴールイメージ 1　体力向上の推進 2　最後までやり抜く子の育成 3　立腰指導、正しい鉛筆握りの徹底（55%→90%以上） 4　安全・防災意識を高める指導（「自分の命は自分で守る」意識の醸成）	○　次年度は、今年度作成した「体力向上プラン」をもとに、コロナ禍でも授業時や昼休みなどで活用できる事例集を作成し、常時体力向上に努めるような取組を行っていきたい。 ○　６年生を中心にして、４・５年生でも朝のボランティア活動に熱心に取り組む姿が見られた。縦割り清掃時も、高学年児童が中心となって、時間いっぱい清掃に取り組んでいた。よい雰囲気ができているので、来年度も継続していきたい。 ○　正しい鉛筆握りについては、称賛・承認による取組により、効果が高まってきた。また、はしの持ち方とつながる部分も多いため、給食時間の指導を学級通信で知らせることにより保護者と連携して取り組むことができると効果的ではないかと考える。 ○　「命」に関する取組については、コロナ対策を行いながら、できる取組を進めてきた。	2.8	3.2	○　体力向上重点種目（握力、シャトルラン、ソフトボール投げ）を県平均以上に引き上げて欲しい。都市部に比べて外遊びの環境等充実しているのでもっと外遊びをするように学校内でも取り組んでみてはいかがでしょうか。 ○　集団的な活動も制限のある中での体力向上の目標、子どもたちが楽しく参加できる（やる気を上げる）工夫もいろいろと大変だったことでしょう。次年度は、集団での活動が楽しめるようになって欲しいです。 ○　正しい鉛筆の握りは向上しており、努力の成果が出ています。 ○　安全・防災での交通事故０（ゼロ）。素晴らしいと思います。最近は、不審者情報も多く聞かれるので、自分の命を守ることの大切さをしっかり伝えて欲しいと思います。
食育	■目標　**望ましい食習慣を身に付けた子供の育成** **－元気いっぱい　Ⅱ－** **心と体をたくましく成長させることができる子供（①一人一人が健康な生活習慣を身に付ける　②物事に主体的に取り組み、最後までやり遂げる）** ■手段･ゴールイメージ 1　家庭・地域と連携した食育指導の推進（地域人材・食材の　活用／ふるさと教育の推進／弁当の日年２回） 2　一人一人に応じた給食指導 3　健康な歯の堅持	○　家庭と連携した食育については、学校栄養職員との協力による食育授業を積極的に行い、学校で学んだことが家庭へとつながる食育授業を進める。 ○　高度肥満の児童への定期的な声かけ、身体測定を続けることで、肥満度の改善に一定の効果があると感じたので、今後も続けたい。 ○　小林小の残食は年度当初から減少しており、指導による効果が高まってきた。今後も自力で食べきれる量を知り、時間内に食べる指導を続けていく。 ○　むし歯治療率については、何回か保健室からプリントで治療のすすめが出たので、昨年より治療率が伸びてきている。 ○　第５波、第６波における新型コロナウィルス感染症対策を講じながらも、食育の活動は十分に取り組めていた。昨年度よりも数値が改善・向上されている。 ○　今年度からフッ化物洗口に取り組んでいる。	2.8	3.0	○　肥満度の改善は、学校だけではなく家庭への啓発も必要となると思います。家庭との連携をお願いします。 ○　食育の掲示板の活用や残食の減少などいろいろな工夫がされており、一定の効果を感じます。 ○　残食率の減少は、大変よいと思いますが、個々により食べられる量が少ない子どもへの配慮も、今後しっかり行って欲しいと思います。 ○　残食率２％以下という目標に向けて、年度当初から減少傾向にあるとのことですので是非続けてください。 ○　むし歯治療は、子どもたちの声かけ、意識づけも大事ですが、保護者の意識を高めるのがとても難しいと思います。年間を通しての声かけ等大変ですが是非続けてください。

次年度の方向性についての校長所見	全体	○　引き続き学校ホームページや保護者への学校からの積極的な情報発信、及び誠意ある対応による信頼関係の強化を図る。 ○　「褒める、認める」を基本とした指導を重視し、「自分のことが好きと思える子供」の育成を進める。
	知育	○　「学びたい度」をさらに向上させる。特に、地域への関心を高めるために、「ひと　もの　こと」についての学習を、地域人材をより活用することで進めたい（コロナ禍での工夫を） ○　基礎学力の実態把握を行い、定着や習熟の機会を設定することで、学習の基盤となる能力を高める。 ○　年間を通して一人１公開授業を計画し、より多くの授業を参観できるようにし、互いの授業から学び合えるようにする。 ○　ICTの活用推進については、タブレット活用研修会を複数回設定するとともに、「情報化推進チーム」を作り、活用を推進する。
	徳育	○　基本的生活習慣のうち、「挨拶ができる児童に育つ」ように、職員、高学年児童が手本を示すとともに、児童会活動やＰＴＡ活動とも連携しながら、指導の徹底を図る。 ○　些細な事案であっても、被害児童が苦痛を受けたと感じる場合は「いじめ」と認知し、組織的に対応し、指導にあたる。 ○　不登校傾向の児童が学校に来やすくなる環境作りや家庭への働きかけを進める。また、登校しぶりの前兆が見えた時、早期の対応を組織的に進める。さらに、家庭、及び各関係機関とも連携しながら対応する。 ○　特別支援教育の理念に基づいて、一人一人の実態を全職員で共通理解しながら指導を進め、個に寄り添う丁寧な指導を行う。
	体育・食育	○　本年度作成した「体力向上プラン」をもとに、コロナ禍での工夫を取り入れた授業や、日常生活、昼休みなどで活用できる事例集を作成し、常時体力向上に努める。 ○　「正しい鉛筆握り」については、低学年を中心にして鉛筆グリップや三角軸の鉛筆も活用し、「正しい鉛筆握り」の定着を図る。 ○　箸の持ち方の指導や残食の指導、肥満傾向児童への指導、及びむし歯治療のすすめ、等については、学校栄養職員や養護教諭と学級担任とが連携して指導を行い、家庭への啓発を行う。